

## 参考ビデオクリップ 要点解説

### 膵頭十二指腸切除術 膵トンネリング・膵切離・切離面の処理

#### <掲載したビデオの手技>

- ・ 総肝動脈・門脈をテープで確保して、膵トンネリングの出口となる膵上縁と門脈の間を十分に剥離した。膵頸部下縁の上腸間膜静脈を確認した。
- ・ 門脈直上で膵頸部背側と門脈の間を愛護的に剥離して、鉗子を膵下縁から上縁に通しテープを通して確保した。離断ラインの膵尾側の膵下縁、膵上縁の膵実質を止血目的に3-0非吸収モノフィラメント糸で刺通結紮した。超音波検査で膵離断ラインおよび主膵管の位置を確認した。膵離断ラインの膵頭部側を1-0絹糸で膵実質を結紮した。
- ・ 膵頸部背側に門脈を保護するためにクーパー剪刀を挿入した。膵尾側を小児用腸鉗子で把持した。鋭的に膵実質の腹側をメスで切離し、背側実質はメツェンバウム剪刀で切離した。
- ・ 膵断端を把持した小児用腸鉗子をやや開いて出血点を確認し、太い血管端は5-0非吸収モノフィラメント糸で縫合止血した。小血管についてはバイポーラで焼灼止血した。主膵管に4Fr膵管ステントチューブを挿入して確認した。

#### <ポイント>

- ・ 膵トンネリングを行う際には血管を損傷することがないように慎重に鉗子を通す。
- ・ 膵上縁の門脈、膵下縁の上腸間膜静脈を確認し膵トンネリングを行う。
- ・ 膵切離に伴うある程度の出血は許容されるが、手技として安定的に行われるべきである。
- ・ 膵切離の方法は様々な方法があり、エナジーデバイスを含め手法について優劣は問われない。
- ・ 膵切離に伴う周囲動脈・門脈損傷を避けるための配慮が必要である。
- ・ 膵切離面の主膵管は損傷することがないように慎重に確認した方がよい。